

おはようございます。皆さんそれぞれに良い新年を迎えられたことと思います。皆さんにとって、本年がより素晴らしい年になることを祈っています。

さて、皆さんはお正月をどのように過ごしましたか。私は、毎年のことですが「実業団駅伝」に始まり、「箱根駅伝」とテレビでの駅伝観戦という三が日でした。駅伝は、1917年に京都～上野間を3日間で走ったのが始まりと言われていています。日本で始まった駅伝は、そのまま世界の「エキデン」になりました。一定の距離を仲間と分担して走るリレー方式はいかにも連帯を求める日本的な発想です。そして、一本の襷にかける多くの人々の思いが駅伝の様々な場面でドラマを生み、感動や共感を生みます。

「襷」には会社や学校の名誉と誇り、そしてチームの血と汗と涙がしみ込んでいます。だから、襷にはとても重みがあり、アクシデントや制限時間オーバーで襷のつながりが切れることは、チームにとって一大事件なのです。この一本の襷を繋ぐ駅伝は、人生そのものの縮図とさえ言われています。

そこで、今日は皆さんに、この3学期は皆さんの人生を駅伝に例えるとどのような区間なのかということを考えてもらいたいと思います。人それぞれ考え方は違うので、正解はありません。あくまでも、私の考えや思いということで話を聞いてください。

私は、2学期の自分から襷を受け、4月から始まる新年度の自分に見えない襷を繋ぐための中間区間だと考えます。今、見えないといいましたが、2学期の終業式でサンタクロースは目には見えないけど確かに存在しているという話をしました。そう、自分に繋ぐ襷も見えないけど存在しているのです。

3年生は就職・進学先での新しい環境に飛び込む自分への襷繋ぎがあります。高校卒業は決してゴールではなく、あくまでも通過点だという考えです。上級学校での学問は勿論のこと、就職先での仕事はそれにも増して大変になります。高校時代より勉強することが沢山あります。ですから、進路を決めた人も新しい環境に備え、今から自分を高めておきましょう。

2年生は進路を選択し、決めていくという3学年の自分への襷繋ぎです。自分の夢や目標に近づく大切な時期です。この3学期からしっかり準備しましょう。

1年生は、高校生活が最も充実する2年生への襷繋ぎですが、逆に中だるみ学年という言葉もあります。努力した人とそうでない人との大きな差が出る学年です。3学期から目標を見据え、努力する姿勢を身に付けておきましょう。

3学期は1年のうちで最も短い学期です。駅伝では距離の短い区間にスピードランナーが割り当てられます。ですから、3学期は勉強も高校生活もスピード感をもって過ごし、十分なリードをもって新年度の自分に襷を繋いでください。

さて、駅伝の襷は1本だけですが、皆さんには繋ぐべき襷がほかにもあります。その一つは、後輩へ繋ぐ襷です。西高生の良さや西高の良き伝統が代々受け継がれていくようにしっかり繋いでください。

私から一つ皆さんにお願いがあるのですが、昨年、西側のトイレが改修され、校舎のトイレがとてもきれいになりました。次に改修されるのは、数十年後でしょう。その数十年間、今のきれいさを保って欲しいと思います。トイレがきれいな学校は生徒がしっかりしていて落ち着いた学校だと言われます。学生募集に来る大学の方、求人票を持ってくる企業の方、文

化祭等で来校する地域の方、学校説明会に来る中学生など、本校のトイレを使う人は沢山います。そういった方々がきれいなトイレを見ると、学校の評判は良くなり、皆さんにとって良いことが必ずあると思います。一昔前、「トイレの神様」という歌が流行りましたね。亡くなったおばあちゃんへの想いを綴った歌で、私は初めて聴いた時泣けました。歌の中では、トイレをきれいにするとべっぴんさんになれると伝えていますが、また、トイレをきれいにしたら金運が上がったという人もいました。トイレをきれいに使うことは心のきれいさの現れであり、神様もご褒美をくださるのだと思います。是非、皆さん一人一人がトイレをきれいに使うことを心掛けて欲しいと思います。

また、皆さんには仲間と繋ぐ襷もあります。箱根駅伝の中で、今昔物語というコーナーがあり、明治大学ラグビー部だった学生が駅伝に駆り出されて出場したというエピソードがありました。その時、出場した方が「人の心と心を繋ぐ襷、これが人生においては一番大事なんだよ。」とお話していました。私は、その言葉にとっても感銘を受けました。

このように、皆さんは未来の自分へ、後輩へ、そして仲間へ繋ぐ見えない襷をいくつも背負っています。是非、それらの襷をしっかりと繋いでください。決して、襷が途切れるようなことだけにはならないでください。

と、ここまでは、最初に話したように私の考えや思いです。この3学期が人生を駅伝に例えるとどのような区間でどんな走りをすれば良いのかを改めて皆さん自身で考えてみてください。どんな区間であろうと、重みのある襷を背負っていることに変わりはありません。その襷を繋ぐ時に達成感を味わい、幸せな気持ちになれる、そんな瞬間が今年皆さんに訪れることを期待して、3学期始業のあいさつといたします。